大隈伯昔日譚

副島種臣伯　犬養毅君
島田三郎君　尾崎行雄君　序

圓城寺清君執筆

全一冊　定價　金壹圓五拾錢　郵税金拾四錢

大隈伯肖像入

大隈伯昔日譚は伯が前半生の自叙傳なり且つ精その如何に世に迎へられたる乎は請ふ左の批評に依て之を知られよ

大隈伯の出身如何を知るに足るのみならず又以て維新當時に於ける時勢を知り得へく又以て今日の時勢に對する參考と爲すべし◉《時事新報》征韓論の由來を記するあたりは特に而白し是を伯半生の自叙傳と云ふも素より不可なく是を維新改革史の一端と見るも亦可◉《東京經濟雜誌》沿南の序言此書の價値を盡せり故に余輩贊せず◉《大阪經濟雜誌》趣味の多き豈尋常史家が他人の傳記を編述せし者と同日の談ならんや特に文章の簡勁なる能く英雄の言行を描寫して遺憾なきを覺ゆ◉《東京日々新聞》大隈伯は維新大業に於ける一有力者其文勳亦多とすべきものなり本書記する所多少誇張を免れずと雖も亦以て風雲の孕胎する所以の消息を解するに足る一部維新史と稱して可なり◉《早稲田文學》本書は他の示す能はざる二事を教ふ大隈伯の性行と維新前後の朝野の實況と是れなり吾人は本書を目して政治界に於ける實際的經驗あり且實際的智識ある一偉人の甚だ多趣的に自己を現示し且多趣的に他を批判し兼て注意すべき時勢遇會を論評せる頗る有益なる好著述と言はん◉《太陽》叙事の警拔なる着眼の奇警なる當時の形勢目前に見るの思あり一部の維新革命史と云ふべく又維新前後の人物評とも云ふべく或は以て維新革命論とも言ふを得べし文章雄健にして能く伯の快談を寫すに適す

自叙傳なり且つ精**竅雄**大なる**維新改革史**若くは**明治當初の活歴史**なり。

●爲替は三澤常次郎宛にて新富町郵便爲替取扱所へ御振込のこと●前金にあらざれば發送せず

發行所　東京麹町有樂町一丁目五番地　**立憲改進黨々報局**

小生儀今般公務を帶ひて富山縣へ罷越候事と相成行李匆々一々御告別申上候遑無之乍略儀以誌上御詫申上候自今御手紙共被下候節は下記の所へ宛御發送願上度此段申添候也不宣

富山縣高岡市舊旅屋門前町納富介次郎方

田中基臣

明治二十七年二月二十二日遞信省認可《定期刊行》

東京京橋區西紺屋町廿六七番地　株式會社　秀英舍印刷